

こちら航空宇宙推進室 ニュースレター

企業版ふるさと納税 新たに35社 2.8億円の寄附

民間にひらかれた商業宇宙港「北海道スペースポート（HOSPO（ホスポ）」プロジェクトの資金として、2024年1月から3月までの間に、35社から企業版ふるさと納税で合計2億8,865万円の寄附をいただきました。

町では、HOSPOの施設を拡充するハード整備と、町内に進出した宇宙関連企業をサポートするソフト支援を2本柱に、HOSPOプロジェクトを推進しています。

今回の寄附により、2020年度～2024年度までの合計で、プロジェクト全体で延べ240社から27億7,200万円（内訳 ハード：11億6,560万円、ソフト：16億640万円）のご支援となりました。



北海道スペースポートの整備状況

町では、北海道スペースポートの拡充整備を進めており、人工衛星用の発射場「Launch Complex-1（LC-1）」の整備と滑走路の300m延伸工事を行っています。

LC-1では、インターステラテクノロジズ社が開発中の小型人工衛星打ち上げロケット「ZERO」の打上げを予定しているほか、国内外のロケット事業者の打上げにも活用されます。2024年度完成予定です。

また滑走路延伸工事は、昨年秋に300mの舗装作業が完了しています。今後は、舗装した路面にマーキングを行い、夏頃の利用開始を予定しています。

1,300mへの延伸により、実験エリアが広がり、スペースプレーンや次世代モビリティの実験、ビジネスジェットの離着陸が可能となり利用の幅が広がることが期待されています。

これらの整備にかかる資金は、国の交付金と企業版ふるさと納税の資金を活用しています。



LC-1完成イメージ図



滑走路延伸工事の様子

道の駅コスモール大樹に実物ロケット展示

道の駅コスモール大樹にて、インターステラテクノロジズ社の「ねじのロケット（MOMO7号機）」を展示しています。

このロケットは、2021年7月に打ち上げが成功した「MOMO7号機」の初代モデルで、これまで同社の工場に保管されていたものです。

全長10メートルのロケットは迫力満点で、市街地でも「宇宙」を感じることができる新たな観光の目玉として、観光客の満足度向上が期待されます。道の駅にお立ち寄りの際は本物のロケットをご覧ください。



実物ロケット展示の様子

JAXA LTPロケット打上げ実験に成功

HOSPOにてJAXA森田泰弘専任教授によるLTP※ロケットの打上げ試験が行われました。

LTPロケットは、固体ロケット量産化技術の獲得を目指して開発している革新固体ロケット燃料を使用した約1.8mの小型ロケットです。

従来の固体燃料と違い、加温・冷却により形状を変えることができる性質（熱可塑性）の燃料を使用しています。この性質により製造工程が効率化され、低コストでの製造が実現できます。

試験では、ロケットが滑走路から打上げられ、LTPが正常に燃焼することを確認しました。



LTPロケット打上げの様子

※LTP：Low melting temperature Thermo-plastic Propellant、低融点熱可塑性推進薬）

第51回相模原市民桜まつり 銀河連邦物産展へ出店

4月6日、7日に神奈川県相模原市で開催された「第51回相模原市民桜まつり 銀河連邦物産展」に銀河連邦タイキ共和国として出店しました。桜まつりは6年ぶりの開催でした。

今回はまるみ工房と和牛道の2店舗が出店したほか、大樹漁協の鮭とばとアミポワールのチーズサブレを販売しました。ブース前に順番待ちの行列ができるほど好評でした。

また、祭り当日は各銀河連邦共和国のお国自慢やパレードなどのイベントのほか、飲食などの露店、企業や各団体のブースが設けられ、満開の桜に多くの人で賑わいました。



銀河連邦物産展の様子